

## 下岡矢市郎さんを悼む

縣神社 宮司 田 鋏 到 一



昨年の九月下旬でしたが、平成二十九年の大幣神事々業報告書提出の為に、大幣座々頭の記名捺印を頂きに下岡さん宅へ伺いました。

下岡さんは病院へ行かれる直前であり、「検査入院するけど、すぐ帰るから他言は無用にして」と口止めをされました。

それが最後になるとは、現し身の人の世は術なき者か、それからひと月と経たぬ内に下岡矢市郎さんは八十の隅路に隠れて終わしまりました。

矢市郎さんは、その人生の半ば近くを縣神社総代として神徳発揚に尽くしてられました。本当に有難く感謝の他ありません。とくに堀井さんの後を継ぎ、長老総代として随分と気を掛けて頂きまして、誠に強い身方でありました。また、度々神社へ足を運ばれて、居合わせ

た人等との談笑は屢々でありました。

しかし今は、幽明の境を異にすることとなり、残された我々は縣神社とその伝統文化を発展継承していく覚悟であります。

今生の別れとはなりましたけれども、皆で成すべきことを成し遂げて、その内そちらへ参りましょう。そして種々と御報告いたしますので、その折には堀井信夫さん藤田孝雄さん共々に大いに語り合うのを楽しみにしております。

どうぞ、永遠に御心安く旅立ち下さい。

平成三十年三月十八日



# 前幣差頭 長野利一さんを偲ぶ

幣差 田原康男



大幣の竹、杖の竹を切り出す。ここから大幣神事が始まる。

毎年6月7日の夜、幣差(へいさし)が集まる。幣差頭・長野利一さんの「今年もよろしく」久しぶりに会った仲間が、誰言うことなく、それぞれに分担された持ち場へと準備に向かう。『振分け』と言う傘の組み立て、大幣の準備、衣装の配分、御幣の製作等々。やがて皆で先日切り出した竹の杖に御幣を取り付ける。多くの参拝者の方々にお分けしたいとの思いを込めて。

長野さんは何時も大幣さんの事を想い、時には先々の為に若い人の参加に心を配っておられた。おかげで幣差も若返った。どんな行事も次に伝える事が困難になってきた昨今、おかげさまで大幣さんは皆が誇りをもって取り組んでいる。

その長野さんが病で入院された。ある時病院から電話があり、何人か来てほしいと言われお見舞いに行くと、「自分は引退したい。付いては」と木田さんを指名された。木田さんは長野さんのための頼みとの事で、引き受けの返事をされた。後日、幣差が集合しこの事を計ると皆一様に賛同した。長野さんに伝えると「ご苦労様、私も安心しました」……そして旅立たれた。

長野さんが長年にわたり思いを込めた大幣さんを無事納めた時、「利一ちゃん、ご苦労様でした」思わずひとり言。



修復前



修復後

1. 境内参道石畳の修復

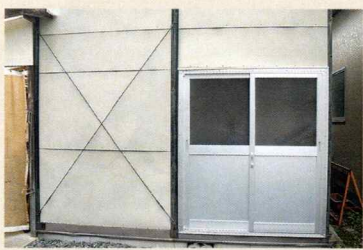
## 平成29年度 縣神社 事業報告



3. 境内 樺、桜、  
柘植、榆の枝払い



4. 本殿大鈴  
修理加工



2. 倉庫扉  
新規取り替え